

会報紙

あんしん地域見守りネット ニュースレター 「第2号」

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人 あんしん地域見守りネット

編集：地域連携チーム(代表 谷口 起代)
編集長：倉田 久
レイアウト：斎藤 正史

事務局：地域活性化センター松戸 (運営：NPO法人 CoCoT)
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445 FAX. 047-369-7445

～令和2年度千葉県元気高齢者の活躍サポート事業補助事業～

地域見守り活動の歩み (第2回)

松戸市では、全国的にも珍しく、町会等の地縁組織が「あんしん電話」を用いた見守り活動を取り入れてきました。

創刊号のこのコーナーでは、この住民主体の活動を広めるにあたって大きなきっかけをつくった幸谷町会と、その取り組みを力強く支えてこられた新松戸診療所からご寄稿いただきました。

本号では、「あんしん電話見守り活動」を住民が主体となって広げることを使命とした「あネット」の前身である、「連絡協議会」が立ち上がるまでの道のりを掲載します。

「あネット」の軌跡をたどる(その①) 「自らの手で! 熱い思いが結集して」

現在、「あんしん電話」による見守りは松戸市全域でカバーされていますが、これは専門家から住民まで、多様なバックグラウンドを持つ人々の熱意がこもった活動の賜物です。もともと「あんしん電話」は、常盤平駅北口の「どうたれ内科診療所」の堂垂先生が、患者さんへのフォローのために用いられていたのですが、2012年から、専門家(見守りステーション)、近所見守りと孤独な高齢者の三者の関係で見守りを行うというコミニティづくりと一体化した取り組みが生まれました。2012年3月に幸谷町会がその口火を切り、その1年半後には南部市営住宅自治会、梨香台団地(NPO法人アイギス)、野菊野団地自治会・胡録台南自治会・みなづき町会(野菊野あんしん電話運営協議会)、牧の原

第二街区(たんぼほの会)、六実六高台連合町会が次々にこの動きに参画していききました。このきっかけの一つとなったのは2012年1月に開催されたテーマ型サロン「車座DeBanda」です。この日、既に「あんしん電話」を運用していた堂垂先生と樋口さん(幸谷町会)を囲んで、これからの見守り活動に危機感を募らせていた町会やNPOの方々が発言に議論を交わし、このつながりの中から、「あんしん電話」に取り組み町会やNPOが次々と生まれたのです。また2013年、「あんしん電話見守り活動」の先駆者たちがパネリストとなったNPO法人CoCoT主催の「地域見守りシンポジウム」には

多くの市民や行政職員が参加し、松戸市内にこの活動を広く紹介する事ができました。



聖徳大学でのシンポジウム (2013年2月)

年	月	出来事
		(2008年から、どうたれ内科診療所で「あんしん電話」運用)
2012	1	車座DeBanda(於:ゆうまつど)「高齢者のひとり暮らしを町ぐるみで支える～診療所と新松戸でひろがる『一人暮らしあんしん電話システム』」。堂垂先生と幸谷町会長の対談。
	3	幸谷町 あんしん電話見守り活動開始。(新松戸診療所)
	9	南部市営住宅自治会、導入。(どうたれ内科診療所)
	11	NPO法人アイギス、導入。(梨香台診療所)
2013	1	野菊野団地、胡録台南、みなづき町会が野菊野あんしん電話運営協議会設立、3月導入。(島村クリニック)
	2	「医療機関と住民組織で作る地域見守り体勢シンポジウム」(CoCoT主催 聖徳大学)
	9	牧の原二街区(たんぼほの会)導入。(どうたれ内科診療所)
		地域見守り連絡会 発足。 六実六高台地区、導入。(社会福祉法人六高台福祉会)
2014	4	「地域見守り連絡協議会」として組織体制確立準備。 会長、副会長、事務局、顧問の選任。
		松戸医師会の後援を受ける。

※「あんしん電話」の各地区の導入については、協議会を設立することに携わった団体のみ記載しています。



連絡協議会発足 (2014年4月)

このような事を経て2013年9月、現法人の前身となる「地域見守り連絡会」が発足。あんしん電話に取り組みでいる者たちによる半年の熱い情報共有や意見交換の期間を経て「地域見守り連絡協議会」が発足したので

いのちと暮らしを守るために、 大胆に「共に生きる」 関係の創造へ

「コロナ禍の発端となった武漢の都市封鎖から1年が経過した。誰もがこの災禍の当事者になり、それぞれの分野において「今やれること」を探りながら進んできた。しかしこの間、孤立する人、生活苦に陥る人は確実に増えた。

都内で貧困問題に取り組む支援団体によって結成された「新型コロナウイルス緊急アクション」の年末年始の「緊急相談会」と「年越し大人食堂」では、計3回で約950食の食事提供と150名の相談があった。「池袋越年越冬活動2020-2021」が翌日SNSに挙げた報告には、相談件数はここ直近5年間の平均の37%増、親子連れや在留外国人が目立ったとある。私たち「あんしん地域見守りネット」のほつとライオンでも9月から居住支援相談窓口を開いたが、日々、切実な相談が寄せられ始めた。この状況はワクチンが普及し自粛が解除されたら解消されるわけではない。コロナ禍は現存する社会の脆弱さを顕在化しただけであって、社会保障制度が危うい状態にあることも、有事に弱者にしわ寄せがいくという点も、またコミュニティづくりの要となる地縁組織の高齢化や後継者不足も既に知る者は知る課題であった。



人は、共に祝い、喜び、悲しみ、弔う
といった事を積み重ねながら関係性を育み、
その関係性によって生きる意味が与えられる。

「かけはし」が目指す、ケアの視点を持って活動する者同士が連なりセルフティネットを構築していくには、2021年は対症療法的な現実的対応と、根本的対応の、2つの視点を持って活動していく必要があるのではないだろうか。

三密を避けることはいのちを守るための現実的対応であるが、しかし、私たちの暮らしは人との密な関わり合いがあつてこそ紡がれてきた。人は、共に祝い、喜び、哀しみ、弔うといった事を積み重ねながら関係性を育み、その関係性によって生きる意味が与えられる。その物語を共有できることが生きる希望を生み出す。本号でも会員の方からコロナ禍での弔いについて寄稿があつたが、暮らしを紡ぐところを凍結させないために無くしてはならないものがある。

大きな共有の場が無理なら、小さな共有の場を増やす。これまで関わりなかつた分野の人や団体と関わりつみる。ベッドタウンの松戸に、テレワークの浸透で昼間に都市通勤者が行き交うようになった。そこに新たにコミュニティづくりの兆しが生まれるかもしれない。コロナが社会課題を「見える化」したのだから、課題の共有がこれまでよりしやすくなるかもしれない。いのちと暮らしを守るために、いまこそ、新たに大胆に関係を創造していくことが求められている。

地域連携チーム代表 谷口起代

編集後記

最近、「自助、共助、公助」という言葉が、色々なところで聞かれます。ところが、共助に関しては、「地域の助け合い」46%が何もしない」といった調査結果や地域活動の担い手の高齢化や後継者難も報じられています。本紙への投稿からも、様々な取り組みを行う前向きな想いととも、様々な苦悩も窺われます。2025年問題ももう目前。地域の取り組みはさらに重要となります。本紙が地域活動に関するコミュニケーションの場とともに、活動を担う方々の文字通り「かけはし」になればと思います。

会員募集のご案内

「(社)あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしております。

正会員 (団体) 5,000円 (1口以上) /年
正会員 (個人) 2,000円 (1口以上) /年

振込口座： 千葉銀行松戸支店 (普) 4277609
口座名義： 一般社団法人 あんしん地域見守りネット

@anshindenwa 「あんしん電話」
E-mail: info@genkiosiete.com
http://anshind.kaiteki-it.or.jp/



物件探し、契約支援、入居中の見守り
安心して暮らすためのサポートをします。

あんしんホットライン 0120-386-117
火・水・木 10:00-18:00

アパートが見つからない...
生活が不安...
地域に知り合いもなく、一人暮らし。

相談受付と支援の流れ
相談窓口(0120-386-117)にご連絡ください。
(相談料は無料です。相談料は無料です。)

千葉県内の住宅情報をお伝えます。
お一人でも、高齢でも、小さなお子さんがいても、安心して入居できる住まいをお手伝いします。
入居するための手続きや物件をお手伝いします。
入居後の見守りのサービスをご紹介します。
継続して暮らしの相談をお受けします。

居住支援とは?
一人暮らしの当事者、障がいのある方、ひとり親の家庭など、地域には、様々な事情により居場所を確保することが難しい方がいます。一方で、大企業や学歴主義者の方は、空き家や空き家を安く借り、専業主婦や専業主夫、高齢者など様々な形で暮らす方が増えています。私たちは、借りたい人と貸したい人が互いに安心して暮らすための橋渡しをします。

千葉県指定住宅確保要配慮者居住支援法人
【地域活性化センター松戸】
〒271-0073 松戸市小根本42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL: 047-711-7445 FAX: 047-369-7445
E-mail: info@anshindenwa.com
ホームページ: http://anshind.kaiteki-it.or.jp/

「あんしんホットライン」
居住支援相談のチラシ

コロナ禍の中での地域活動

新型コロナウイルスの感染が広がる中で、三密を避けソーシャルディスタンスをとることが求められるなど、地域活動もあらたな課題、難問に直面しています。このコーナーでは、あんしんネット会員が携わる地域活動を中心に近況について報告します。

利用者を守り、事業を守る訪問介護の現場から

株式会社リノキノ

私たちの事業の一つ、「訪問介護」の仕事は、ご自宅を訪問するところから始まり、老人ホームのようにロックダウンし外部との接触を断つことが出来ません。どんなに職員が気を付けていても、お伺いする家庭・家族の衛生状況、考え、行動は実に様々です。そして、感染が市中に拡大したときに、どこかのお宅から職員が感染するリスクは高く、そのまま、私たちがキャリアとなって、ご利用しているご家庭にウイルスを配り歩く可能性が小さくありません。また、万一、ご利用者が感染した場合、誰が看護をするのか？という重大な問題もあります。このため、4月頃には会社の前でマスクの無人販売をしました。出来るだけ安

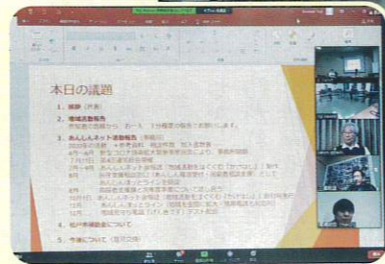


い価格でマスクを販売し、地域での感染予防を行ってゆきたいと考えたからです。これは、「地域貢献」というよりも、「自社の事業を守るために地域から守る」という考え方です。地域の皆様と手を組んでの感染予防が、結局は自社事業の安定化にも成ります。この様な動きは、他社さんにも多く見られ、アルコールや防護服の情報も頂きました。今、弊社は次の取り組みとして、感染予防力の高いサージカルマスクの普及、高齢家族への予防啓蒙に努めています。コロナはいち企業の問題ではありませんが、協働により地域を守ることが出来ると感じています。

あねっとピックス

意見交換会開催

2020年12月4日、「あんしんネット意見交換会」が開催された。参加者は、会員(個人11名、団体4団体)、賛助会員1団体、会場参加者とオンライン参加で実施された。



【現状報告】

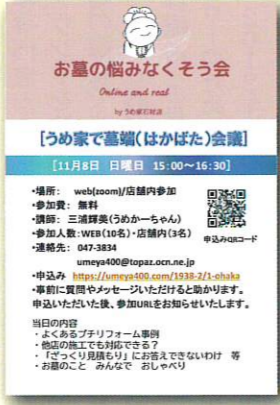
・コロナ禍で、直接訪問することが非常に難しい環境になり活動の停滞が顕著になってきた。
・長く活動し10年経った地域では、見守られる側も見守る側も共に高齢化し、活動の世代交代が進まず、打開策や展望の見えにくい状況が起きている。
・自治会町会の活動が不活発になると、利用者の拡大は難しい。
・見守りステーションを担う診療所でも、医療現場で新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者とならないうための業務や診療所の環境整備など対処しなくてはならないことで医療機関も負担が増えた。

【他地域の動向や今後について】

・引きこもる生活が続く、介護認定が増えてきた。体力・筋力が低下していることなどから、日々の活動の再開に向けて動いている団体や地域も多い。
・「あんしん電話」のような先端技術の利用や関係機関との連携ができてきている見守り事業は需要があるはずだから、拡大の方向でなんとか進めて欲しい。
・加入しない理由について、しっかり検討分析して、加入の促進を図ろう。

コロナ禍のなかでのお弇い

「コロナ」は、高齢者や子供たちの暮らしを支える地域活動だけでなく、終末期の看取りや亡くなられた方のお別れにも大きな影響を及ぼしています。故人をどのように見送るか、「遺族の想い」にどう寄り添うかという課題となっています。



うめ家石材店 三浦 輝美

「コロナ」が流行し始めた3月、八柱霊園への墓参りはあまり影響がなかった。ところが、「コロナ感染症」による有名人の死亡が相次いで報道され、東京都が厳戒態勢になると、街からは人影が途絶え予定以外の来店客もなくなった。そして、想定していたことが4月早々に「コロナ感染症」による死亡・遺骨の埋葬依頼があつた。まだ、コロナによる死亡者が100人に満たないころの出来事だ。依頼人からの第一声は「叔父がコロナでなくなりました。近々に納骨したいのですが」だった。「大丈夫です。納骨できますよ」と答えた。火葬された遺骨からウイルス感染はないことは知っていた。依頼人とは親の代からのご縁だ。故人は入院中も面会できず亡

くなり、遺族の立ち合いも不可能な状態で茶毘に臥された。遺骨は郵送で遺族に届いた。「遺族は別れを惜しむことも許されず、お弇いをしたくてもできず、その死を受け入れがたい状態」で納骨依頼をされたのだ。

弊社がすることはただひとつ「コロナで亡くなられても、差別なく遺族の納得がいくお弇いをする、お弇いされてあの世へ送り出す」ことだった。どんな「死」であつても差別なく遺族が明日を生きるためのお弇いをするのが弊社の信条だ。依頼の電話から納骨当日まで4日間、すべてメールと電話でやり取りし無事に納骨を済ませた。納骨後「来年、コロナが落ち着いたらまたお墓に集まろう。一周忌にお墓で供養しよう！」と遺族におっしゃっていただけだ。

無事に納骨供養したことで安心と明日を生きることに希望につながることができた。お客様と対面の打ち合わせができないことでお墓の施工予定が大幅に遅れ収入も落ちた。その間、様々なオンラインセミナーに参加しお客様とのコミュニケーションをスムーズにするツールも取り入れた。また、一定以上の金額の施工契約をいただいた方に返礼品としてアマビエグッズや地域飲食店利用可能クーポンを発行した。そして現在「オンラインセミナー」も開催するようになった。また、YouTubeチャンネル「うめ家チャンネル」も開設し、ピンチをチャンスに切り替えている。

近所見守りのむずかしさ

野菊野地自治会 齋藤 正史

松戸市内では電話詐欺が横行し被害が後を絶たない中、一人住まいの高齢者は、不審な電話や訪問業者が来たりすると怖いと語り、電話やインターフォンが鳴るたびに神経質になっています。「あんしん電話」の加入者へ見守りの為電話や訪問をしても、不審がられ信用を得られないまで、手間が掛かるようになっています。離れて暮らす親族からは「電話にでるな」「ドアを開けるな」と言われているようで困ったことです。

「あんしん電話」の見守り活動では、加入時に担当者の名前や顔を知ってもらう様に面談をしていましたが、始めて7年と経過し、問題なく今まで過ごされ方の中には、こちらの名前などを忘れてしまった方もおり対応の難しさを感じます。

ほっとラインNOW

国土交通省住宅セーフティネット機能強化推進事業

「あんしんほっとライン」は、2020年9月から、住宅取得要配慮者の居住支援相談も受け持っています。住まいが見つからない方の相談窓口です。地域や親族との縁が薄くなった単身の高齢の方は、一人暮らしのための住まいを見つけることが難しくなっています。大家さんや不動産事業者の方は、空き家や空き室を抱えて貸したいけれど、単身高齢者の健康状態や暮らしを見守ることが困難さやトラブルを心配しています。

国土交通省住宅セーフティネット機能強化推進事業
アパートが見つからない。生活が不安。一人暮らし。日々の暮らしの相談窓口

居住支援相談/あんしん電話の申し込み

あんしんほっとライン

0120-386-117

月～金 10:00～16:00

ほっとラインでは、単身の高齢者が安心して暮らす環境づくりのために大家さんや不動産事業者の方に働きかけて、緩やかなつながりを作つて孤立化を防ぐ「あんしん電話」の導入を勧めます。当事者と支援者を繋げていく窓口ともなっています。

その電話！詐欺犯人にはありませんか？

千歳市内では1年だけで！
被害件数 **1,409**件
被害額 **約25億**6,000万円
1日約4件、約700万円の被害

被害者の約**92%**が**65歳以上**の方です。
人ごとではありません！

STOP! 電話de詐欺

あなたの大切なお金を守るために！
電話機の機能をシャットアウトしよう！

相手の電話番号も確認しよう！
通話を留守電に！
録音しよう！

千歳市・千歳市警察